

## 研修後の進路

	2020年度	2021年度	2022年度
国立がん研究センター（医員、研究員、Physician scientist 等）	2	0	2
大学病院	2	0	0
全国のがんセンター・全がん協加盟施設	0	0	0
市中病院	2	1	0
企業、海外留学等	0	0	0
その他	0	0	0
合計 ※研修継続者、専攻医は除く	6	1	2

研修に関するお問い合わせ先

教育担当：野中 哲

snonaka@ncc.go.jp

## ■ プログラム

### § 推奨するコース

#### ● レジデント3年コース

研修目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する</li> <li>臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む</li> <li>国内・国際学会での筆頭演者</li> <li>Peer review journalでの筆頭著者</li> <li>専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医</li> <li>合計100例以上のESD術者経験および2-3本の英語論文執筆を目指す</li> </ul>
研修期間・ローテーション	1年目：初期は消化管内視鏡科研修、それ以降のローテーション期間（CCM含む）では、病理科（6ヶ月以上）・消化管内科など診断部門および内科部門が選択可能。また、検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得を目指す研修も可能。 2年目：前半は消化管内視鏡科へ戻り、以降は消化管内視鏡科研修。各臓器（食道・胃・大腸）の術前カンファレンスを担当する。学会発表、論文執筆、研究立案など。 3年目：消化管内視鏡科研修。各臓器（食道・胃・大腸）の術前カンファレンスを担当する。学会発表、論文執筆、研究立案など。

#### ● がん専門修練医コース

研修目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年間、消化器内視鏡科に特化して、より高度な内視鏡診断・治療を研修する</li> <li>臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む</li> <li>国内・国際学会での筆頭演者</li> <li>Peer review journalでの筆頭著者</li> <li>専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医</li> <li>2年以上のレジデントコース修了後の実力に相当する医師を対象としたコース</li> <li>合計150例以上のESD術者経験および3-4本の英語論文作成を目指す</li> </ul>
研修期間・ローテーション	2年間：原則として消化管内視鏡科に在籍するが、検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得と、内視鏡検診に関する研究を行う研修も可能。各臓器（食道・胃・大腸）の術前カンファレンスを担当することもある。学会発表、論文執筆、研究立案など。

### § 副次的なコース

#### ● レジデント2年コース

研修目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する</li> <li>臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む</li> <li>国内・国際学会での筆頭演者</li> <li>Peer review journalでの筆頭著者</li> <li>専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医</li> <li>合計50例以上のESD術者経験および2-3本の英語論文執筆を目指す</li> </ul>
研修期間・ローテーション	1年目：初期およびローテーション以外は消化管内視鏡科研修。ローテーション期間（CCM含む）では、病理科・消化管内科など診断部門および内科部門が選択可能。また、検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得を目指す研修も可能。 2年目：消化管内視鏡科研修。各臓器（食道・胃・大腸）の術前カンファレンスを担当する。学会発表、論文執筆、研究立案など。

#### ● 連携大学院コース

研修目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する</li> <li>臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む</li> <li>国内・国際学会での筆頭演者</li> <li>Peer review journalでの筆頭著者</li> <li>専門医取得：日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会専門医、日本カプセル内視鏡学会専門医</li> <li>連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられる</li> </ul>
研修期間・ローテーション	1年目：初期およびローテーション以外は消化管内視鏡科研修。ローテーション期間（CCM含む）では、病理科・消化管内科など診断部門および内科部門が選択可能。連携大学院に入学する。 2年目：消化管内視鏡科研修。各臓器（食道・胃・大腸）の術前カンファレンスを担当する。学会発表、論文執筆、研究立案など。 3-4年目：がん専門修練医に準ずる研修を行い、学位論文を作成する。 ※がん専門修練医への採用には再度選考試験あり ※不採用者は任意研修の立場で大学院に在籍は可能だが、当院からの給与は支給されない

#### ● レジデント短期コース

研修目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化管の内視鏡診療と臨床研究に取り組む</li> <li>学会発表や論文作成を目指す</li> </ul>
研修期間・ローテーション	6か月～1年6か月：消化管内視鏡科研修。他科ローテーション相談可能。 ※6か月を超える場合は病院の規定に基づきCCM研修を行う

#### ● 消化管・胆膵内視鏡エキスパートコース（レジデント2年コース）

研修目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化管内視鏡科および肝胆膵内科において消化管・胆膵内視鏡の専門的な知識・技能を習得する</li> <li>臨床試験や臨床研究の計画・実施に取り組む</li> <li>国内・国際学会での筆頭演者</li> <li>Peer review journalでの筆頭著者</li> <li>消化管内視鏡科では在籍期間に応じて、より多くのESD術者経験および英語論文作成を目指す</li> <li>肝胆膵内科では胆膵内視鏡の検査・治療が主たる目的の入院患者を担当しながら、検査・治療全体に携わる</li> </ul>
研修期間・ローテーション	2年間：初期に消化管内視鏡科研修。その後は消化管内視鏡科および肝胆膵内科を希望の期間で研修する。消化管内視鏡科および肝胆膵内科で18か月以上の研修を必須とし、両科を少なくとも6か月以上ずつ研修する。病理科等の関連診療科での研修も選択可能。

#### ● 消化管・胆膵内視鏡エキスパート短期コース（レジデント短期コース）

研修目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>消化管・胆膵内視鏡の診療と臨床研究に取り組む</li> <li>学会発表や論文作成を目指す</li> </ul>
研修期間・ローテーション	6か月～1年6か月：消化管内視鏡科および肝胆膵内科研修。 ※6か月を超える場合は病院の規定に基づきCCM研修を行う

対象者、研修期間、CCM・緩和医療研修、交流研修等 病院全体で定められた基準は16-17ページを参照